

新年おめでとうございませす

参議院選挙では、日本国憲法を守ることを真正面から訴えます

昨年十二月六日、岸田文雄首相は、臨時国会の所信表明演説で「いわゆる敵基地攻撃能力も含め、あらゆる選択肢を排除せず、現実的に検討する」と表明しました。これは相手国への先制攻撃であり、一歩間違えば全面戦争となる恐れがあります。

この動きに呼応するかのようには、二〇二二年度当初予算案の防衛費は前年度比五八三億円増の五兆四〇〇五億円となり、十年連続の増加で過去最大となりました。先の臨時国会で成立した二十一年度補正予算七七八億円と合わせると六兆一七四四億円です。初めて六兆円の大台に乗りました。さらに自民党は防衛費GDP比二%、一〇兆円台を目指しています。この危険な流れをストップさせるために、社民党は平和外交など友好親善で緊張緩和を追究して行きます。

七月の参議院選挙において、社民党は日本国憲法を守ることを前面に主張し、平和と国民の暮らしを守ることを訴えています。

社民党福島県連合代表 狩野光昭

トリチウム汚染水海洋放出に

絶対反対です

昨年十二月二十一日、東京電力は二〇二三年から三〇年間以上にわたってトリチウム汚染水を海洋に放出するために「福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施

計画変更認可申請書」を原子力規制委員会に提出しました。

東京電力は、二〇一五年八月に福島県漁連に対し「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わず、多核種除去設備で処理した水は発電所敷地内のタンクに貯留い

たします」と約束したにもかかわらず、関係者の理解を得られないなかで申請書を提出したことに、社民党は強く抗議しました。

県漁連の野崎会長も「我々が反対しているのに淡々と進むのは非常に不満だ」と訴え、いわき市長も「令和五年春の海洋放出を前提として申請書を提出する旨の報道があったことは誠に遺憾である」との見解を表明しています。

地元の生業を守るために、トリチウム汚染水の海洋放出は絶対に認められません。

労働者の賃金引上げで格差解消と、生命と暮らしを守ります

日本の労働者の平均賃金は三〇年間も引き上げがなく韓国の賃金よりも低くなっています。二〇万円台の非正規労働者が四割となり子どもを産み育て生活できない状況が生み出されています。

また、正規労働者も長時間労働やパワハラ等により精神疾患者が増えています。

一方、企業の業績は好調で、利益の蓄積である内部留保は積み上がり、二〇二〇年度末は四八四兆円と九年連続で過去最高となりました

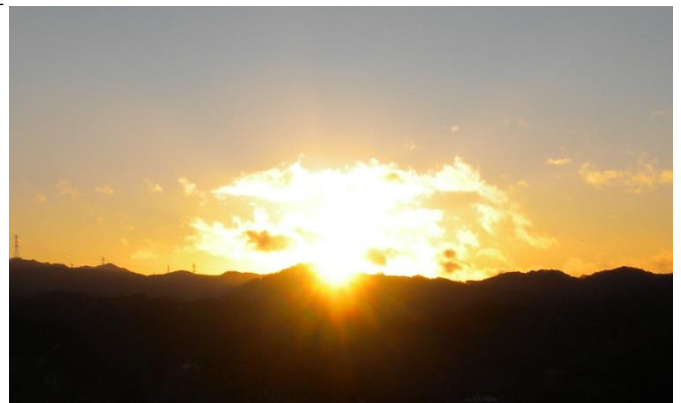
した。

私たちが実施している「くらし労働なんでも相談会」では、コロナ禍で生活困難な人の深刻な相談が増えています。

貧困問題の抜本的解決に向け、正規労働者の賃金引き上げと共に時給一五〇〇円の実現を目指します。

そして、公助を求めるための財源確保、消費税率ゼロ、所得税の累進制度の強化、不公平税制の是正、大企業への課税強化を主張していきます。

(社民党福島県連合HPより転載)



石川町新田ふれあいセンター付近から
初日の出を拝む (撮影：編者)

* 議会活動報告 *

石川町議会において渡辺 実議員及び菊池美知男議員の社民党公認・推薦の二議員が、町政発展と住民福祉向上に日々、活動を続けています。本年も住民の皆様と共に安心して暮らせる町づくりに邁進します。

昨年十二月の町議会定例会における一般質問活動を報告します。

☆ 渡辺 実 町議会議員

○ ヤングケアラーの実態と支援について

【質問】ヤングケアラーの実態調査の実施を

【答弁】国・県の指導を受け、行います。

【質問】ヤングケアラーとは十八歳未満の児童・生徒が家族の家事や世話、介護などを引き受けて、勉強や学校生活が心配される子どもです。町の実態を伺う

【答弁】介護事業所などからの報告で把握しているのは二件です。本人からは発信できない状況になっていることもありま

【質問】国は早期発見が大事として、全国調査を実施したがその内容は

【答弁】全国の中学生、高校生を対象に実施し、中学生の六%がヤングケアラーとわかりました。

○ 小規模農業・家族農業への農業支援と農村集落の存続について

【質問】小規模・家族農業と集落存続に向けた対策を

【答弁】実態調査や対策等、今後検討

します。

【質問】小規模農業・家族農業は高齢化や後継者不足、経営の赤字などで離農者が出て、集落維持が難しくなる状況です。町の存続にも関わる問題です。町の現状は

【答弁】令和二年では、経営面積が二ヘクタール未満の経営体が八割であり、農業生産の重要な役割を担い、農地の保全や水源の涵養、景観の形成、地域文化の伝承などに寄与しています。

販売農家も令和二年は七三五戸、平成十七年は一二三三戸で、十五年間で四八八戸が減少、年間平均三十戸減少です。

【質問】農家や集落の実態調査、検定会等の設置、支援策検討の考えは

【答弁】今後、検討します。

【質問】営農指導体制の整備の考えは

【答弁】県、JAと協議し検討します。

【質問】農家や集落の存続に向けた町長の考えは

【答弁】あと五年が勝負で、対応していきます。

【質問】国連の「家族農業一〇年」の設定等、国際的には家族農業が再評価されていますが、町の考えは

【答弁】核となる農業者を中心に、小規模・兼業農家などが生産活動に携わり、農村を維持することが重要です。地域農業を牽引する経営体や集落営農組織の育成等の取り組みを継続していきます。

【質問】今年度産米下落に対する支援再検討の考えは

【答弁】今のところ考えていません。

☆ 菊池美知男 町議会議員

○ 石川町公民館の活動及び地域活動強化について

【質問】石川町公民館活動と各自治センターに対する支援策は

【答弁】公民館では、町民一人一人が生涯にわたり自由に学ぶことができ、環境をつくるため町民全体を対象とした事業や、各自治センターに対し、必要に応じた連携と支援を継続して実施しています。

【質問】自治センターの活動の現状と業務に対する人員体制は

【答弁】地域事業や生涯学習事業のほか、地域における各種団体の連絡調整など様々な事務事業が行われております。

【質問】自治協議会の活動状況と必要性について伺う

【答弁】活動の指針となる「地区計画」を定め部会を設立し、各種団体間の連絡調整を担い、地域の特性を活かした独自のまちづくりを展開し、行政と住民の隙間を埋める協働による公助のパートナーとして果たす役割は重要であると考えています。

【意見】自治協議会等の組織が出来た事により、新たな労力や費用負担が発生し、地区住民の皆様への重荷にならないよう、申し上げておきます。

○ 新たな歴史民俗資料館の利活用について

【質問】石川町立歴史民俗資料館移転整備基本構想に基づく各種展示や企画展イベント開催などでの各スペースの具体的な利用計画は

【答弁】最も大きい旧宴会場部分を常設展示室、隣接する倉庫部分を鉱物標本室、二番目に大きい部屋は企画展示や貸館、講演会場等に考えています。

【質問】基本構想を具現化するための人的体制や改装費用は

【答弁】人的体制は、資料館運営に係る職員二名と会計年度任用職員四名を配置し、鉱物学を専門とする学芸員の採用に向けて協議してまいりたいと考えています。

総事業費は、土地取得費も含め開館までに五億五千万円と見積もっています。

○ まちなか再生行動計画の見直しについて

【質問】まちなか再生行動計画については一昨年の甚大な豪雨災害を踏まえ、町民の意見をよく聞き災害対策と防災対策を含めた計画とすることが必要のため、計画の見直しについて伺う

【答弁】まちなか再生委員会を開催し、今後の計画等について精査を進め、町の再生、新しい賑わいをつくってゆきたいと考えています。

|| 編集後記 ||

壬寅(みずのえとら)年は「厳しい冬を越え芽吹き始め新しい成長の礎となる」意味があり、虎は毛皮の模様から夜空

に輝く星と考えられ『決断力と才知』の象徴としての意味もあるといわれています。

